
豊浦地域 [川棚温泉エリア] 再生ビジョン

— 概要版 —



令和4年3月

下関市



燦燦礼島

さんさんらいとう

川棚は、三方をなだらかな山に囲まれ、目前に厚島をのぞむ。里には燦々と光が注ぎ、山の裾野を滑り降りるように、いつも風が吹いている。

瀬戸内海と日本海、ふたつの海には生まれ、本州最西端に位置する山口県。絶景スポットとして世界的にも知られる角島大橋や、明治維新の舞台となった萩がある北側は山陰地方、日本三名橋の錦帯橋（岩国市）や山口宇部空港を有する南側は山陽地方と呼ばれています。

豊浦地域「川棚温泉エリア」があるのは、山陰地方の西側。美しい輪郭を描く鬼ヶ城連山から、響灘へ向かって裾野が広がっていく：そのなかほどにある川棚温泉は、まるで山の懷に抱かれているようです。温泉地として八〇〇年も長い間泉を絶やさず、いつの時代も、優しいいで湯で、人々を迎え入れてきました。

「川棚温泉は私の最も好きな風景だ。山裾に丘陵をめぐらせ地形において申し分がない」。これは、自由律俳句で著名な俳人・種田山頭火が、川棚で残した言葉です。自由律俳句とは、五七五などの決まりにとらわれず、たゆたう心を自由にうたっていく句のこと。緑豊かで風薫る川棚の雰囲気と、やわらかないで湯を心から愛した山頭火は、旅の中で一〇〇日間ほど滞在し、「ここに庵を結びたい。（中略）ここに死んで、このあたたかい温泉の湧く土に埋めてもらおう」と日記に記したといえます。

いつまでも眺めていたいところ落ち着く景色と、万人をつつみこむやさしい湯。このことこそが、昔も今もかわらない、豊浦地域「川棚温泉エリア」の閑雅です。

第1章 未来につなぐまちづくり

1-1 10年程度先を見据えた目指すべき方向性及び将来像

豊浦地域 [川棚温泉エリア] らしさとまちづくりの方向性

さんさんらいとう
燦燦礼島

自然への畏敬
恵みへの感謝

- ▶ 三方をなだらかな山に囲まれ、前面の響灘に厚島を望む、豊浦地域 [川棚温泉エリア]。
- ▶ 山、裾野、海、島を一つの空間としてとらえ、自然との調和や風薫る心地よさを見せていく。
- ▶ 島を神聖なものとして扱うことで、自然への畏敬や恵みへの感謝の心を育んでいく。



循環・回遊

点と点をつなぐ
取組

- ▶ 山の裾野を滑り降りる穏やかな風が吹いている、豊浦地域 [川棚温泉エリア]。
- ▶ 営みの中にも循環や回遊がある状態を作ること、豊浦・川棚らしい風土の心地よさを印象付ける。
- ▶ 散策やそぞろ歩き、回遊アクティビティなど、点と点をつなぐ取組を行っていく。

調和

暮らしの中に息づく
観光

- ▶ 種田山頭火やアルフレッド・コルトーが「ここで暮らしたい」と語った、豊浦地域 [川棚温泉エリア]。
- ▶ 孔子曰く、「近き者説（よろこ）び、遠き者来（きた）る」。
- ▶ 暮らしと共存する観光地として、観光弊害を避けながら、誰もが利用しやすいサービスや体制を構築する。

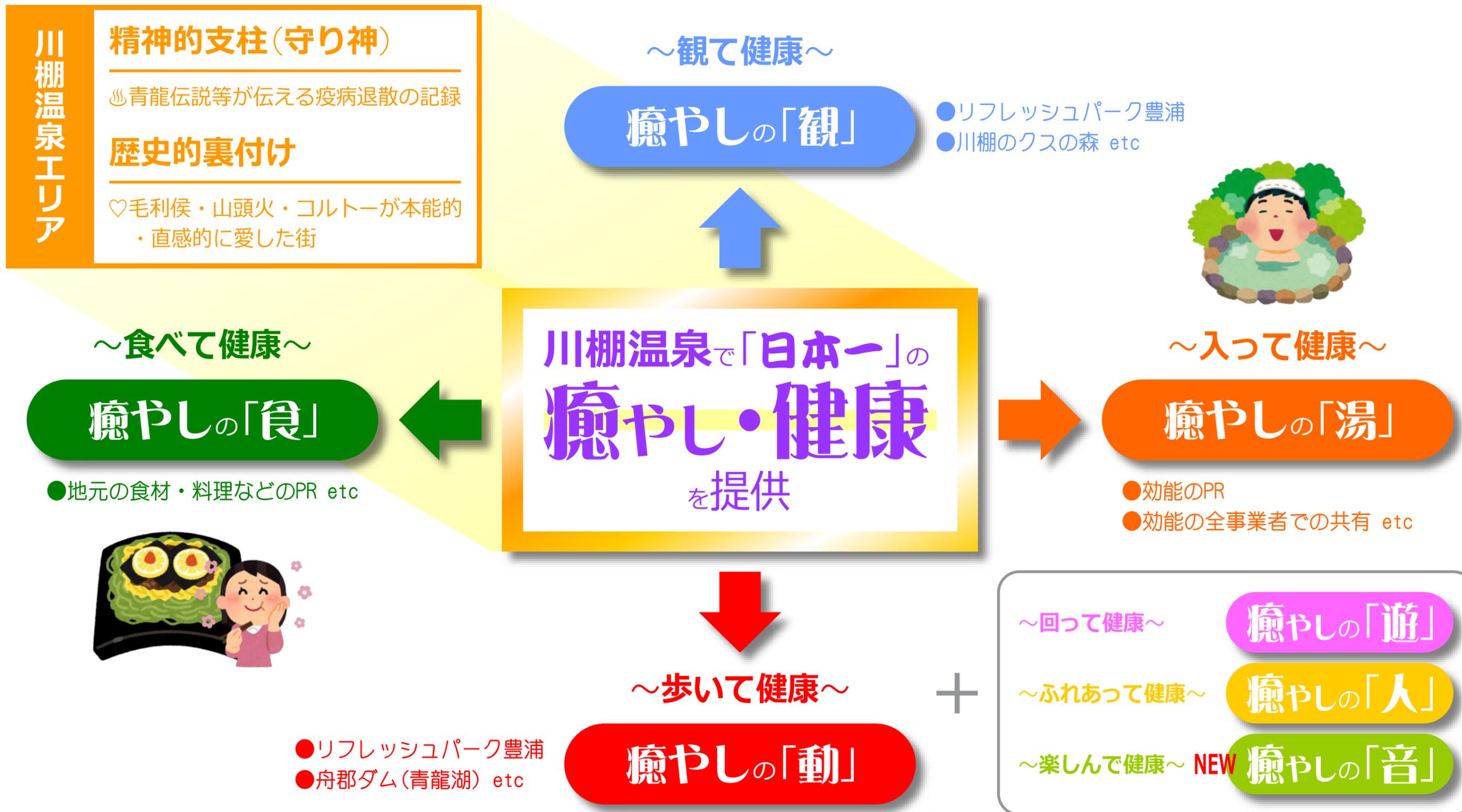


包容

万人を受け入れる
温かさと優しさ

- ▶ 人を選ばない優しい泉質で、殿様から町民まで多くの旅人を受け入れてきた川棚温泉。
- ▶ 万人を受け入れるお湯のように、地域内外に開かれた、温かく優しい環境を作っていく。
- ▶ 新しい事業者・移住者の受入、温泉街の日帰り旅行など、気軽な利用機会を創出する。

川棚温泉エリアが**目指す**将来像と**癒やし**のテーマ



1-2 地域を再生に導く戦略

川棚温泉エリアを中心に展開する施策とその効果

重点的な9つの施策と効果

(観光振興策で狙う施策と効果)

癒やしの観

①  景観の改善

癒やしの食

②  産業の振興

癒やしの湯

③  地域食・伝統食・新商品のPR

癒やしの動

④  温泉の活用、健康の増進 (心身のリフレッシュ)

癒やしの遊

⑤  散策・そぞろ歩きの促進

癒やしの人

⑥  回遊性の向上、回遊アクティビティの促進

癒やしの音

⑦  人材の育成・確保

⑧  新規出店の促進

⑨  音楽によるまちづくり **NEW**

⑩  定住の促進

⑪  シビックプライドの醸成、生涯活躍のまちづくり

⑫  稼ぐ力の確保 (所得・売上の向上、地域への再投資)

⑬  施設の利用率・収益性の向上

⑭  転倒・交通事故・犯罪の防止

副次的な5つの効果

川棚温泉エリアの地域再生に向けた施策の展開イメージ

舟郡ダム（青龍湖）

川棚温泉街

リフレッシュパーク豊浦



散策
回遊



散策
回遊



魅力の  底上げ

魅力の  底上げ

魅力の  底上げ

観光の振興



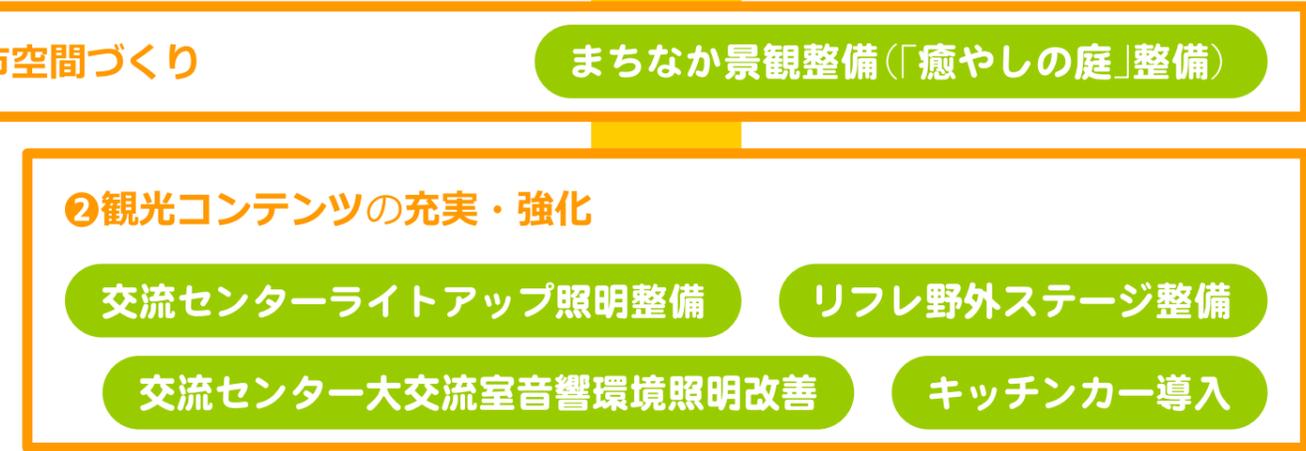
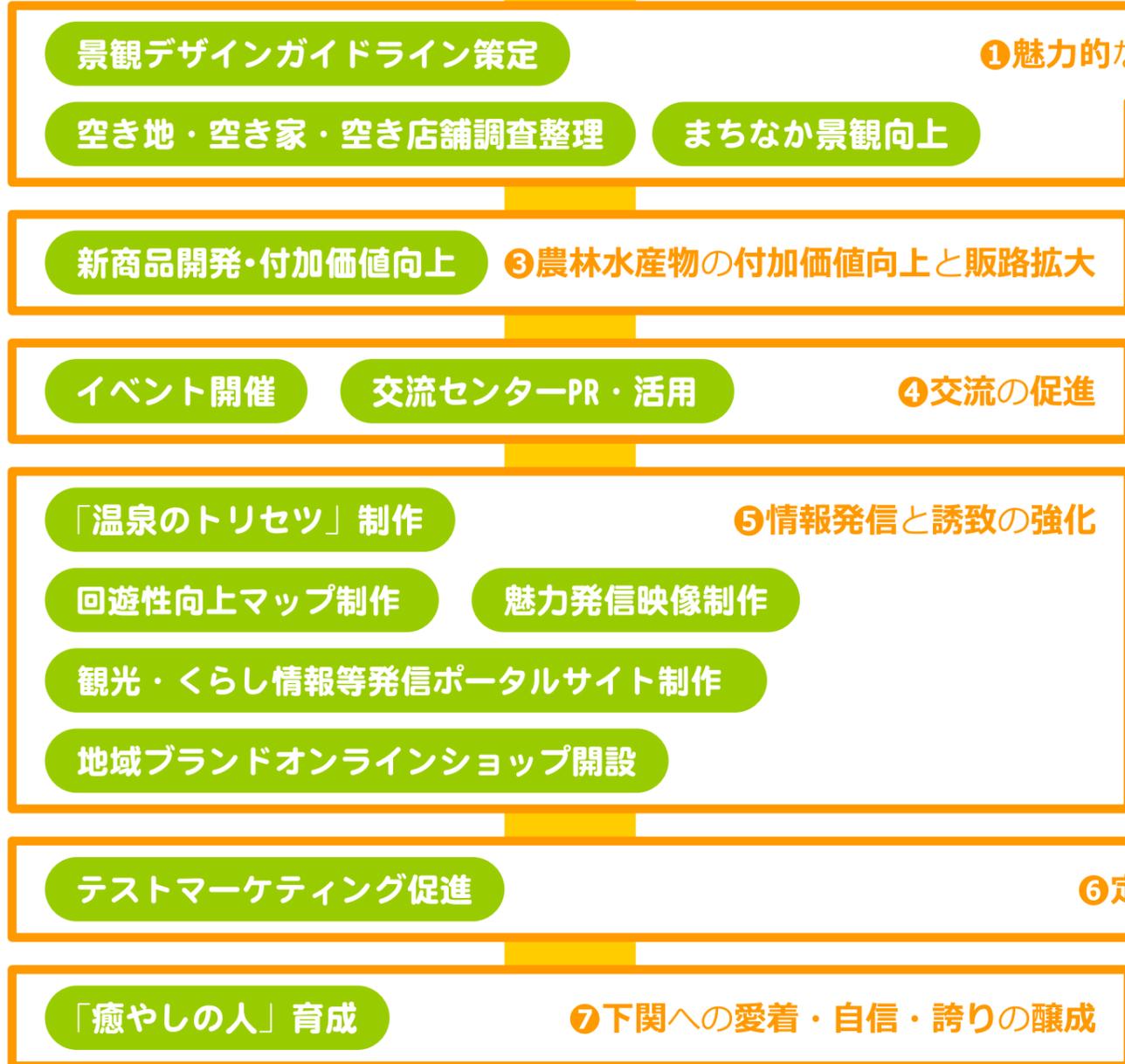
癒やしのテーマ 観 食 湯 動 遊 人 音

- ①  景観の改善
- ②  産業の振興
- ③  地域食・伝統食・新商品のPR
- ④  温泉の活用、健康の増進（心身のリフレッシュ）
- ⑤  散策・そぞろ歩きの促進
- ⑥  回遊性の向上、回遊アクティビティの促進
- ⑦  人材の育成・確保
- ⑧  新規出店の促進
- ⑨  音楽によるまちづくり NEW

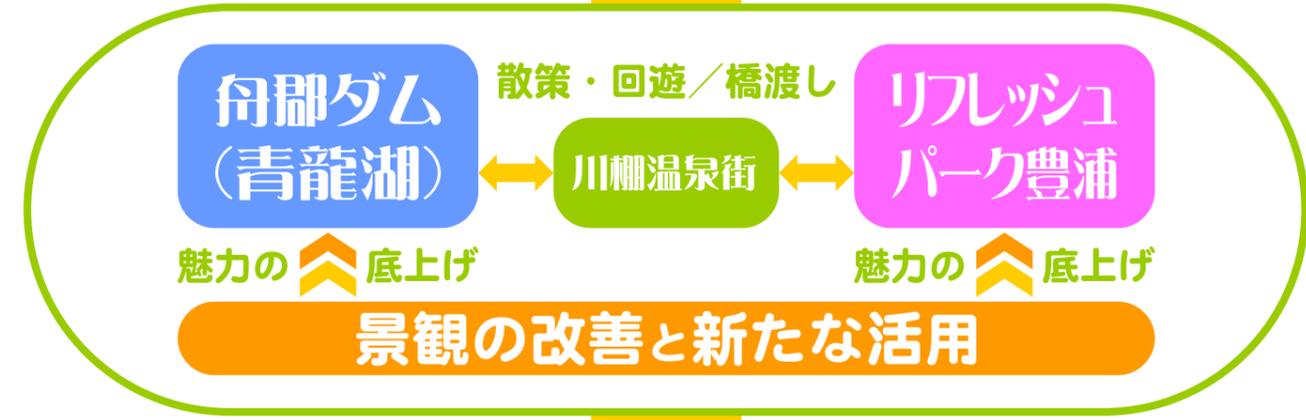
地域再生に向けた事業区分ごとのアプローチ

ソフト事業によるアプローチ

ハード事業によるアプローチ



※ハード事業のイメージ



▶川棚温泉エリアの地域再生 ▶波及効果・相乗効果による豊浦地域全体の再生



800年の歴史を持つ川棚温泉は、古くから北九州・下関の奥座敷として親しまれてきました。

その良質で無色透明のラジウム泉は、38～42℃の湧出温度で絶え間なく湧き続けています。

「ひと」にとっては、ほどよい温度。まさに、自然の恵み・奇跡と言えるでしょう。



川棚温泉と言えば、やはり「瓦そば」。川棚温泉の代名詞です。

そして、忘れてはならないのが、ご存知「青龍伝説」と、知る人ぞ知る「怡雲和尚にまつわる伝承」です。



約1400年前、この地を襲った大地震で命を落とした青龍。それを哀れんだ人々が、村の守り神として祀り、平穏な暮らしへの祈りと感謝を捧げ続けたことで、最初の温泉が湧き出したとする「青龍伝説」。



その約600年後、日照りと疫病に苦しむ人々を助けたいと祈り続けた僧侶が、枕元に現れた薬師如来に導かれ、人々と力を合わせて再び掘り出したものこそ、今の川棚温泉だとする「怡雲和尚にまつわる伝承」。



これらの伝説・伝承は、温泉の発祥を伝えるものですが、温泉の発見につながった“きっかけ”が、どちらも「自然に感謝し、他者を思いやる、人々の優しい思い」であったことは、不思議な共通点です。



こうしてみると、これらの伝説・伝承が伝えようとしているのは、単純な温泉の発祥や温泉自体の温かさだけでなく、「ひと」がもつ優しい想いの温かさ、そして、それが何より大切なのだという普遍性なのかもしれない、そんなふうにも感じられます。



美しいもの、珍しいもの、美味しいもの。そんな非日常を求める人々の温泉地に対するニーズは、時代とともに**保養から歓楽**、そして、**観光から癒やし**へと変化してきました。



その変化に、全国の温泉地は、その都度**難しい決断と対応**を迫られ、中には、黒川温泉のように大成功を収めたものもありました。



その成功の裏にあったのは、**互いを支え合い、喜びを分かち合う**という「**共生の理念**」。

それを生み出したのも、やはり「**青龍伝説**」や「**怡雲和尚にまつわる伝承**」が伝える、人々の**優しさ**でした。



ひよつとすると、温泉地を訪れる人々は、**温かいお湯**だけでなく、**温かい想い**であふれる人々や街並みに、「**癒やし**」を求めているのかもしれない。



豊浦に暮らす人々が、地域の**自然に感謝し、互いを尊重しながら**創造力を結集し、**ともに手を携える**。

そして、ここを訪れる人々に、**ここならではの「恵みと奇跡」**、**ここにしかない「優しい想い」**を感じていただく。

そんな「癒やしのシーン」を巡る
点と点を結んでいくことが、
豊浦地域 [川棚温泉エリア] における
未来につなぐまちづくりです。



豊浦川棚リトリート

穏やかで優しい、豊かな風土を活かした、 「癒やしの小旅行」

～癒やしのシーンを演出し、新たなステージへ～



豊浦地域 [川棚温泉エリア] は、訪れる人々が心身ともに健康になれる、そんな8つの「癒やしのシーン」(癒やしの観・食・湯・動・遊・人・音 + 小さな建築「癒やしの建」)を提供しながら、川棚温泉の起源を今に伝える「青龍伝説」の青龍とともに、次なるステージを目指します。

1-3 未来につなぐまちづくりのコンセプト

本プロジェクトにおける
豊浦地域 [川棚温泉エリア]
まちづくりのコンセプト

観光プロモーションの
キーワード

あらまほしき暮らしが、
ここにはある。

「あらまほし」とは、ラ変動詞「あり」の未然形「あら」と希望の助動詞「まほし」が一語になったもので、「でありたい、であってほしい」という意味である。「なんでもあるけど、なんにもない」という意識を、「暮らすのにちょうどよい」という発想に転換し、豊浦地域 [川棚温泉エリア] のささやかで穏やかな文化・風土を、住んでいる人、営んでいる人が一番慈しみ、育てていこうという決意をこの最大級の誉の言葉に込める。

豊浦川棚
リトリート
心身の休息と充足
癒やしの小旅行

穏やかで優しい、
豊かな風土を活かした、
「癒やしの小旅行」

「リトリート」とは、リトリートメント (retreatment) が語源で、日本語では転地療法と訳される言葉。日常生活や仕事場から物理的に離れ、疲れを癒やしたり自分を見つめなおしたりすることを意味する。旅においてもより精神的な満足がより求められる中、心身の休息と充足が大きなテーマである。川棚温泉は、800年と歴史のある温泉地だが、遊興や消費では満たされない、より深い部分での満足をどのようにして提供するかが、これからの課題。穏やかな心地よさのある風土と土地の恵みを見つめなおし、豊浦地域や川棚温泉エリアらしいリトリートを創出する。

「穏やかで優しい、豊かな風土を活かした、『癒やしの小旅行』を可能にするまちづくり」を目指し、川棚温泉エリアを中心に様々な事業を展開し、その波及効果を豊浦地域全体にもたらすことで、**地域を活性化させ、まちの賑わいを創出していく。**

第2章 交流人口・関係人口の拡大に寄与するハード事業計画

2-1 下関市川棚温泉交流センター（川棚の杜）整備事業

【問題点】

交流センターの周辺は、一帯を照らす照明がなく、夜間は暗がりに包まれ、常に歩行者の転倒、交通事故、犯罪等を誘発するリスクをはらんでいる。

また、交流センターの大交流室は、空調の稼働音が大きいために演奏中は空調を可動させることができないほか、天井及び壁に反射材が不足しているために十分な反響効果を得られておらず、イベント用の照明設備も不足している。

【目的】

転倒等のリスクを解消し、夜間における川棚温泉街の景観を改善させることで、夜間の来館者及び夜間に散策やそぞろ歩きを楽しむ来訪者の増加、仮設店舗による出店の促進等を図ること。

また、夏季・冬季における音楽イベントの開催を可能にし、音響環境及び照明を大交流室の稀有な形状を生かしながら一体的に改善することで、交流センターの利用率及び地域の集客力を向上させること。

【期待される効果】

- ▶ 川棚温泉エリア内外への誘客
- ▶ 景観の改善
- ▶ 散策・そぞろ歩きの促進
- ▶ 施設の利用率・収益性の向上
- ▶ 転倒・交通事故・犯罪の防止
- ▶ その他洗練性・独自性・回遊性の向上

2-1-1 大交流室（コルトーホール）空調機騒音改善

(1) 空調機の型式

型番：FXYMP224M × 4台（天井埋込ダクト型）

風量：58m³/分（強） 50m³/分（弱）

運転音：46dB（強） 43dB（弱）

(2) 空調機側での消音対策の提案

① 吹出口（アネモ）サイズの変更

→ 吹出口のアネモサイズを35型から40型又は45型にサイズアップ

② 消音チャンバーの設置

→ 吸込側にも消音チャンバーを新設する（現状は対策なし）

③ SAダクトのルート変更及び消音ボックスの設置

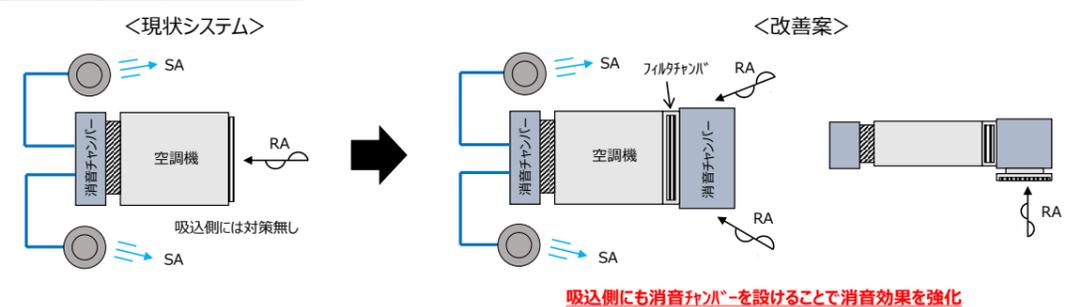
→ 可能な限りSA（Supply Air）ダクト側に曲げを増やし、消音ボックスを新設

① 吹出口（アネモ）サイズの変更

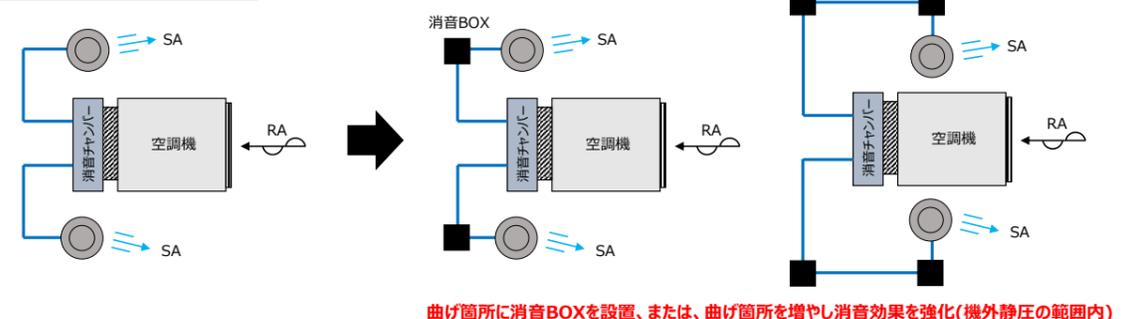
アネモサイズ	風量 (CMH)	騒音値 (db)	到達距離 (m)	低減量 (db)
#35型	1740	43	6.0	-
#40型	1740	37	5.8	6.0
#45型	1740	32	5.6	11.0

吹出口の到達距離は、風速0.5m/sの位置を示しています。

② 吸込側消音チャンバーの設置



③ SA側消音BOXの設置



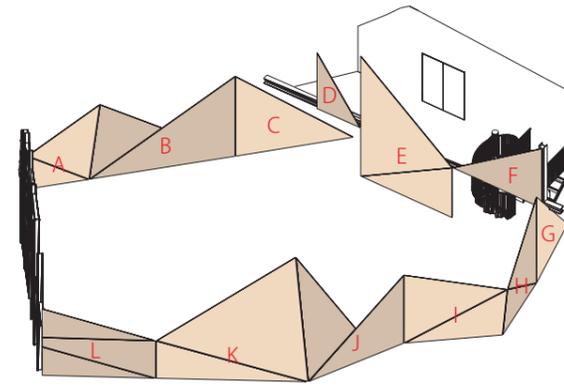
2-1-2 大交流室（コルトーホール）音響環境照明改善

【音響環境】

立体的に連なる木の壁

音響反射板となる木製壁の設置（約 180㎡）

素材：桧無節羽目板（造り付け家具の位置付け。内装不燃とする場合は、ケイカル板下地に木練り付けとする。



ユニットのイメージ



【照明】

2FにLEDスポットライト8台+手摺を新設（安全性に配慮）



2-2 川棚温泉街まちなか景観整備事業（「癒やしの庭」整備事業）

【問題点】

川棚温泉街のまちなかに散在する空き地（廃業した旅館等の跡地）は、駐車場としての使い勝手が良い反面、殺風景な見た目が温泉地らしい情緒風情や独特の景観を失わせ、川棚温泉街に閑散とした住宅地のような雰囲気をもたらす要因の一つとなっている。また、まちなかに散在する空き地や未活用の土地が、旅行者の回遊欲求や購買欲求、事業者の出店意欲を減退させ、川棚温泉街や川棚温泉エリアの活性化を阻害している大きな要因と考えられるが、それらの土地の一つに市有地が含まれている。

【目的】

川棚温泉街の中心部にありながら未活用の土地となっている市有地が景観向上の先駆けとなって、旅行者の回遊欲求や購買欲求を満たすと同時に、事業者の出店意欲を掻き立てる上向きのオーラを川棚温泉街に生み出すことで、散策やそぞろ歩き、新たな出店を促進すること。

【期待される効果】

- ▶川棚温泉エリア内外への誘客
- ▶景観の改善
- ▶散策・そぞろ歩きの促進
- ▶新規出店の促進
- ▶その他洗練性・独自性・回遊性の向上



神奈川県 湯河原駅前広場（隈研吾建築都市設計事務所）



秋田県 湯の駅おおゆ（隈研吾建築都市設計事務所）



静岡県 蓬萊 古々比の瀧（隈研吾建築都市設計事務所）

癒やしの庭



誰もが訪れやすい癒やしの庭

2-3 リフレッシュパーク豊浦野外ステージ整備事業

【概要】

リフレッシュパーク豊浦に野外上映用スクリーンを設置することのできる野外ステージを整備する。

小編成のオーケストラ、ブラスバンド、ジャズバンド、ロックバンドなどが演奏できる、屋根付きのステージ。観覧者が芝生や椅子に座ったり、自由に飲食したりしながら、音楽や映画を気軽に楽しめるものとする。また、イベントが開催されていないときは屋根付きのテラス席として利用できるつくりとする。

こざ
莫蔭やレジャーシートなどの貸出や屋外用のテーブル・椅子などの設置、キッチンカーなどの出店を行えば、より多くの集客を見込める。

【期待される効果】

- ▶川棚温泉エリア内外への誘客
- ▶回遊性の向上、回遊アクティビティの促進
- ▶音楽によるまちづくり
- ▶施設の利用率・収益性の向上
- ▶新規出店（仮設店舗）の促進
- ▶SNSを利用した情報発信の促進
- ▶その他洗練性・独自性の向上



秋田県 湯の駅おおゆ (隈研吾建築都市設計事務所)



Sidney Myer Music Bowl
(Melbourne, Australia)



大分県 竹田市城下町交流プラザ
(隈研吾建築都市設計事務所)

リフレッシュパーク豊浦野外ステージ（杜のピクニックステージ）



人が集い、気持ちよく過ごす、木でつくられた杜のピクニックステージ

豊浦地域〔川棚温泉エリア〕再生ビジョンに記載されている事業等は、豊浦地域〔川棚温泉エリア〕の目指すべき方向性及び将来像について記載したものであり、事業の内容は、地域の実情、現地の状況等との整合を図る上で変更となる場合があります。

豊浦地域〔川棚温泉エリア〕再生ビジョン

策定年度：令和3年度

発行年月：令和4年3月

発行者：下関市（下関市役所豊浦総合支所地域政策課）

〒759-6301 下関市豊浦町大字川棚6895番地1

TEL：083-772-4001 / FAX：083-774-3305



豊浦地域〔川棚温泉エリア〕再生ビジョンの策定には、ボートレース下関の収益金が活用されています。
